

Vories
cure&care



ヴォーリス
だより

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
三ツ浪 健一
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有) 東呉竹堂 (ひがし印刷)

病院ホームページアドレス
<http://www.vories.or.jp/>

2016年(平成28年) 5月1日 第107号

地域包括ケアシステム推進における看護師の役割と使命

～看護の日によせて～

看護部長 岡田 幸子



うらかな春日和となり、ヴォーリスの里も桜から新緑の季節を迎えました。
今年度は27名の新入職者を迎え新年度をスタートいたしました。

我が国は、これから迎える少子超高齢化社会の進展により人口構造の変化と、経済状況は、保健・医療・福祉に大きな影響を及ぼすと予測されています。人的資源と財源が限界を迎えている中で、これまでの病院完結型から、医療・看護(ケア)・生活が一体化した地域完結型の体制への転換が進められています。つまり「地域包括ケアシステム」の推進です。

ヴォーリス医療・保健・福祉の里の機能は、これからの時代を支えるための重要な基盤となります。その中で当院は、急性期(地域包括ケア病床含む)・回復期・慢性期・終末期の機能別病床を有し、在宅療養支援病院として、病気が障がいにより自分らしく、自分の望む場所で暮らすことへの不安を抱えた地域住民の方々を365日24時間体制で支えることを大きな使命として運営しています。

これからの時代を見据えるとき、私たち看護師には、人権を尊重する倫理的態度と、健康・医療と生活の視点をもつことが求められています。2016年4月診療報酬改定においては、「退院支援」における看護師の働きが大きく評価されています。これを受け、当看護部組織に「在宅療養支援課」を新設しました。具体的活動として、「入院時スクリーニングシート」にて病態、日常生活行動レベルや生活背景を把握、病棟看護師と共に退院計画書を作成します。本人、ご家族の不安や思いを尊重しながら、院内・外チームカンファレンスを定例開催しながら退院支援をいたします。また、希望する生活場所で暮らし続けることが出来るよう状況に合わせ、退院後在宅訪問(訪問看護師との同行訪問)を行い“安心”を提供しながら在宅療養支援いたします。従来の地域連携室を地域医療課と改名し、病病連携、地域との連携の向上・推進さらに相談機能の強化を図り、共同しながら活動いたします。

近年、独居・老々介護・日中独居など生活背景の複雑化に加え、医療依存度、認知症問題など在宅療養へのハードルは高くなっています。多様化する在宅療養へのニーズに応えるためには、私たち看護師は、医療と介護を“つなぐ”ための病気や症状の有無だけでなく生活機能に目を向け評価し、それを高める看護を提供していく役割があると考えます。在宅ケア移行支援研究所、宇都宮宏子氏は「入院したときから、今抱える疾患や症状が退院後の生活にどのような影響があるのか?患者本人はどこでどのような生活を望んでいるのか?を知り入院生活により“病人”にしない看護を実践する役割がある」と述べておられます。新設した機能を十分発揮し、より個別的在宅療養支援に取り組み地域包括ケアシステム推進の役割を担っていきます。そのためには、他職種連携が重要であり、それぞれの専門性を十分に発揮できるようマネジメントできる看護師の働きが要と考えています。

ナイチンゲールは「看護の対象者を、生活者として捉える」と明言しています。そして、「患者ケアにおいて、その人の内に宿る生命力を信じ、その力が十分発揮できるように回復過程や、生活過程を助けること」と述べています。この看護の原理を心に刻み、“看護”を遂行し、新たなシステムを確実に運用させ、多様化する看護の役割と使命を果してまいります。

5月12日外来フロアにて「看護の日イベント」を開催し、当看護職の働きを紹介する予定です。

～ともに看護を語りましょう～

**敷地内全面禁煙です。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。**

今
月
の
聖
句

今日ダビデの町で、あなたがたに救い主がお生まれになった。
この方こそ主メシアである。

新約聖書 ルカによる福音書 2章11節



チャプレン 安部 勉

キリスト教を「信じる」ということは「イエスが救い主である」と信じることです。「イエス」というのは名前ですが「一郎」といった一般的な名前です。時に「ナザレのイエス」と言われます。それは「北ノ庄の一郎」というように人物を特定するためです。そして「キリスト」は苗字ではなくヘブライ語で「メシア」という言葉をギリシャ語に翻訳した言葉で「油注がれた者」という意味です。その意味は「救い主」。

今月の聖書にも「この方こそ主メシアである」とありますが、「救い主」という言葉では収まらない深い意味を「キリスト」「メシア」という訳すことない言葉として用いています。

ダビデとはユダヤの王様でした。ユダヤ人にとって最も偉大な王様の一人でした。つまりその王様に繋がる者としてイエス様の誕生を記しました。

新約聖書、特に福音書と呼ばれている文章はこの「イエスは救い主です」ということを人々に語り継ぐためにあるとも言えます。

今月の聖句はクリスマスの物語としてご存知の方も多いかもかもしれません。夜、羊飼いたちが野宿をしながら羊の群れの番をしていました。そこに天使が現れ、彼らに伝えた言葉の一節です。「恐れることはない」と言いながら。

その言葉を聞いて羊飼いたちはダビデの町、と呼ばれるベツレヘムに向かうのです。

今の時代、大きなニュースは一瞬にして世界中へと伝わります。インターネットを見れば世界で起こっていることがどこにいても知ることができ

ると言っても過言ではないでしょう。時間の流れの違い、変化のスピード、それは聖書が記された時代と比べることさえできません。

福音書は早く人々に救い主誕生の喜びを伝えることより、救い主誕生の喜びが「どのように伝えられたのか」ということを大切にしました。「まず羊飼いに知らされた」ということを後世の人に訴えようと願ったのです。

昼夜に関わらず羊の番をしなければならないこと、それは羊に合せなければなりません。神の日とされている安息日も守ることのできない中に羊飼いはありました。そのことが「正しい」と自覚ある人から見て蔑まれていたとも言われます。

羊飼いに天使が告げたのは救い主の誕生をこの世で苦しみや辛い立場の人々に神さまは最初に知らせようとしたのです、とのメッセージ。

救い主に期待することは沢山ありました。ローマという巨大国家に支配されていたユダヤの人々にとって「自由」と「自治」を回復することも「救い」でした。それを成し遂げる王こそ「救い主」である、と考えていた人もいました。そして一人一人の苦しみや悲しみから解き放ってくれる力を注いでもらいたいと願っていました。でも新約聖書は「救い主」とは武将のような英雄ではなく「苦しみや悲しみに心寄せられる方」なのだ、と描きます。力強い働きの中に神さまの思い、救い主のしるしが示されるのではなく小さいことの中に、弱さの中に示されるのだよ、と。私たちに訴えています。

在宅サービス部門だより

活動・参加につながるリハビリを

訪問リハビリ 理学療法士 中塚 絵理

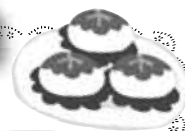
リハビリという言葉は一般的に使われるようになりましたが、リハビリ＝機能訓練と思われる方も少なくありません。実際に心身機能の低下が生じた時、基本動作を獲得するため機能訓練は必要ですが、それだけでは生活は成り立ちません。生活する為には食事・排泄・入浴・更衣ができ、また料理・掃除・洗濯・外出をする力、日常生活の活動する力が不可欠です。そして住み慣れた場所で生活する為には、家庭や地域で役割をもつこと、社会へ参加する力も必要です。リハビリの目的は

機能回復に留まらず、機能低下や障害がある中でもその人が持つ最大限の力を発揮し、住み慣れた場所での活動を高め、社会参加を支援することだと考えています。

昨年度介護報酬改定においても、活動・参加に焦点を当てたリハビリが推進され、訪問リハビリ部門でも利用者の方に応じた活動・参加への実践を行っています。一人でも多くの方が、住み慣れた場所で自分らしい生活が続けられるよう、支援していきたいと思っております。



ヘルシークッキング 5月 ちまき・柏餅



＜ちまき＞エネルギー 64kcal タンパク質 1.1g 脂質0.1g (1個分)

★材料(10個分)

- ・餅米 180g
- ・きな粉、砂糖、塩、醤油 お好みで適量
- ・笹の葉 20枚
- ・イグサ 10本



★作り方

- ① 笹の葉とイグサを水に漬ける。
- ② 餅米を洗い、水気を切る。
- ③ 笹の葉を三角に折り、もち米を詰め、もう1枚笹の葉をかぶせて三角に包む。イグサで縛る。もち米は水分を含むと膨らむので軽めに縛る。(イグサの縛り方は解けなければどんな縛り方でもOKです)
- ④ ③を一晩水に漬ける。
- ⑤ 鍋に水と③を入れ、中火で50～60分程茹でる。
- ⑥ 茹で上がった後湯から取り出し水気を切る。
- ⑦ 笹の葉を取り、きな粉や醤油など好みの味でいただく。



5月と言えば「端午の節句」。盛夏入りを前にしたこの時期に「柏餅」や「ちまき」を食べて夏の無病息災を願います。柏餅の原型は「(ぶと)」という古代菓子で、日本最古のお菓子の一種と言われ、ちまきは中国から伝来したもので年代は明らかとはなってはいませんが、神功皇后が三韓征伐の時に持ち帰ったという説や仁徳天皇の時に宮中に献じられたのがきっかけであるという説など様々な説があります。

共に歴史ある食べ物と言えますが、それぞれ防腐作用に優れ

る柏の葉と笹の葉を使用しているため保存食としても優れた一面を持っています。また、餅米はたんぱく質やでんぷんを多く含み、消化器系を丈夫にして体力を強化する働きに優れています。また、体を温める作用も高いので、冷え性改善も期待できます。

柏餅もちまきも、自宅で手作りして食べるという風景はほとんど見られなくなりましたが、今回はちまきの作り方をご紹介しますので、手作りに挑戦してみてもいいのではないでしょうか？

健康について

1 病棟 高 森 芙侑美

私が思うに健康は、心と体が元気なことだと思います。しかしそれは何も悩むことがなく、病気もないことという意味ではなく、自分自身が元気だと感じられるのであれば、それが健康だといえるのではないかと思います。ほとんどの人は、何かしら思い悩むことがあったり、体に調子が悪いところを抱えていたりするものだと思います。私自身もそうですが、自分は健康だと思っています。それは自

分のやりたいことができたり、生きがいがあったりして、今の生活が楽しく、充実しているからだと思っています。

心も体も無理をしすぎると、調子を崩してしまいます。自分の健康を保つためには、何事も前向きにとらえるような思考も大切なのかなと思います。自分のことを「健康だな」と思えるような、自分らしい生活をするのが大事なのではないかなと思います。

報告1

里総合・消防署合同消防避難訓練 報告

副防火管理者 櫻井卓哉

去る、3月2日(水) 14時から約7年ぶりに里総合(病院・老健センター・ケアハウス)及び近江八幡消防署合同の消防避難訓練が実施されました。

今回は病院東館、2階病室より出火したという想定で、自衛消防隊の初期消火活動及び入院患者の避難誘導・搬出を行い、無事避難する訓練と消防署による負傷者救出や逃げ遅れの患者の救助の訓練を行いました。

毎年行っている病院単独の消防訓練とは緊張感も一味違い、初期消火から消防署員への引き継ぎもスムーズにいき、終了時の消防署からの講評も評価を得ることができました。

日頃から災害に対する意識を忘れず、緊急時に速やかに対応することで万が一、本当に起こったとき平常心で対応できるように訓練に参加した職員全員が真剣に取り組むことができました。

講評の中では昼間の対応より夜間の対応が重要であることも指摘されました。今後、夜間帯に起こる災害を想定しての訓練も行う必要性を感じました。



報告2

2015年度 ガンセミナー第3回 報告

チャプレン 安部 勉

さる3月19日、2015年度「ガンセミナー」第3回を開催いたしました。今回のガンセミナーは「人生の苦楽をみつめる」をテーマにフランクルの「人生の意味」「訪問看護からみた人生」そして最終回は「がんと闘うためには」と題し当院ホスピス医の奥野貴史医師より講演、その後、参加者と一緒に「人生の苦楽をみつめる」というテーマに基づき皆さんの思いを分かち合いました。

人生の意味を見出すことの難しさ、在宅での介護、療養の体験談など終了時間いっぱいまで話題が尽きず皆さんとの活発な話し合いができました。特に最終回「がんと闘う」とのテーマに当事者、また家族の切実な問題としての思いや、「治療を終えた後の診察はなぜ5年が一区切りなのか？」との質問に活発な意見がかわされました。「医師と患者との関係」ではなく一人の人として思いを分かちあい、これからの歩みを見つめる一時となりました。



報告3

入社式 報告

チャプレン 安部 勉

さる4月1日（金）、2016年度入社式をヴォーリズ記念病院礼拝堂で行いました。今年度は27名の新入職員、および昨年4月2日以降に入社された19名と合せ45名、安部チャプレン司式のもと入社記念礼拝に於いて誓約式に臨みました。式においては公益財団法人近江兄弟社理事長の三ツ浪健一医師より新たに入社された皆さんへの歓迎の言葉、そして新たなスタートに向けての職員一同心を合せ歩み出すよう奨励を頂きました。

また午後には近江兄弟社グループ合同入社式に臨みました。ヴォーリズの業績や歩みに触れながら各グループの働きを理解し、各事業を通してヴォーリズが提唱した「近江を神の国に」との理念を実践するためにあることを学びました。

新たな歩みに緊張や不安、それ以上に希望をもって社会人として第一歩を歩みだした方、また新たな思いで当院での勤めにつかれる方、一人一人の歩みが祝福のもと歩み出しました。皆さんから学ぶことを通して

よりよい医療者へと育まれるよう見守っていただきませうようお願いいたします。



報告4

自己啓発セミナー 報告

リハビリテーション科 理学療法士 脇坂 勇輝

春の気配に心浮き立つこの頃、我々平成28年度新入職員一同は、晴れてヴォーリズ記念病院に入職致しました。ここに集った仲間と共にこの日を無事迎えられたことを大変感謝致します。

さて、先日4/2（土）に行われました自己啓発セミナーについてご報告させていただきます。我々新入職員一同は「理想の病院」と題し、病院の理想像を劇で表現する機会を頂戴致しました。当日は午前中から夕方まで各々のシナリオ設定やロール配分、セリフ挿入等を話し合い、各チーム5分間劇を披露致しました。各チーム、様々な理想像を形にしていたのですが、共通して感じた事は患者様お一人おひとりに寄り添い、患者様の主訴は勿論、その内面やその後の生活までも想定したシナリオ設定であった事でした。そして、各チームの患者様を考える姿勢はシ

ナリオだけでなく、セリフの一つひとつにも現れていました。理想の病院を作っていくのは、我々職員一人ひとりであり、チームワークを駆使しヴォーリズの総合力で頑張ろうという思いが要所に込められていました。

このような機会を通じ部署、職種を超えて同期の絆を構築するとともに、各々の劇に込めた思いを共有することで方向性や価値観を再確認出来ました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました関係者一同の皆様方、本当にありがとうございます。我々新入職員一同、ヴォーリズ記念病院の理念を通じ、患者様や地域の皆様の理想の病院となるべく努力してまいりたいと思っております。つきましては、これからの温かいご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

報告5

『 接遇研修を受けて』

診療支援室 岡山 めぐみ

先日4月4日（月）に外部講師である吹田先生をお迎えし「新人職員のための対応セミナー」が開催され、コミュニケーションの基礎から仕草や言葉遣い、電話応対などを教えて頂きました。私たちは様々な患者様やそのご家族と接する機会があり、直接でなくても電話口や他機関との関係上でも人間関係を円滑に進める必要があります。

まず第一印象の効果として目からの情報は55%と言われており、人はその相対する人に対して「安心できるか、受け入れてもらえるか」というのを感じるそうです。その点は医療機関に求められている点だと思います。そのためには身だしなみやその場にふさわしい表情等が必要になってきます。普段何気なく行なっている言葉遣いや話し方、動作を見直すいい機会になりました。

特にお辞儀の仕方は、場面にあった角度や手の使い方があり、改めると背が曲がっているなど格好が

ついていませんでした。そして敬語についても慣れて話してしまっていることも多かったのではないかと思います。そういった丁寧さにはメリハリをつけることも大事で、常に最敬礼をするのではなくその場に応じた礼を使い分けることが必要なのではないでしょうか。言葉遣いにしても常に畏まっていては距離を感じてしまうので、不自然のないように話すことも大切ではないかと感じます。

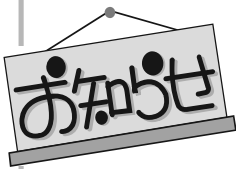
先生は何事でも「認識と実践」だとおっしゃっていました。今回の研修で教わった今の気持ちを大切に、実行していくことが自分たちに求められている最低限のものだと思います。こういったことは普段仕事に追われていると後回しになってしまうことも多いものです。患者様に限らず職場の人間関係においても心に留め、今回の研修を思い出し、初心を忘れずにいたいと思いました。

報告6

第236回 ミュージックタイム



さる2016年3月26日、「第236回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。今回は「におの会」の皆さんの「コカリナ」の演奏を皆さんと楽しみました。優しい音色に気持ちも優しくなる一時でした。

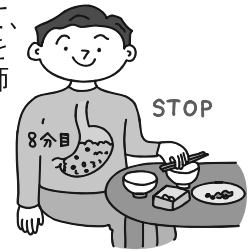


▶ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで月に一度、木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお尋ねください。

日時 **5月26日(木)** 12:00~13:30 場所 **新館研修室(病院内)**
講師 **医師**

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



近江八幡市介護予防拠点事業

ヴォーリス介護予防教室のご案内 (平成28年度)

開催日程表

回	日程	内容	担当・講師
1	5月26日(木) 14:00~16:00	「身体を動かして 認知症を吹飛ばそう」	メディカルフィットネスセンターヴォーリス 介護福祉士 田辺 彰太 氏
2	7月28日(木) 14:00~16:00	「おりがみ教室 PART X I」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏
3	9月15日(木) 14:00~16:00	「認知症になってもその人 らしい生き方を支える」	訪問看護ステーションヴォーリス 在宅看護専門看護師 田村 恵 氏
4	11月24日(木) 14:00~16:00	「認知症の予防(運動編)」	ヴォーリス記念病院 作業療法士 宮本 優子 氏
5	2月23日(木) 14:00~16:00	「おりがみ教室 PART X II」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏

- ①対象者 おおむね65歳以上の方 定員：30名
- ②場 所 アンドリュース記念館(旧YMCA会館)
近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)
- ③参加費 無料
- ④申し込み 1回目5月23日(月)までに往復ハガキで
①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡先電話を
記入の上、下記の係りまでお申し込み下さい。

〒523-0806 近江八幡市北之庄町492
ヴォーリス記念病院内 介護予防教室係 まで
お問い合わせは、ヴォーリス記念病院内
ホームヘルパーステーション
担当 生駒
(Tel 32-7130 Fax 36-5458) まで

メディカルフィットネスセンター

会員募集

あなたの健康づくりをサポート

安心して楽しく運動して頂けるよう、からだの状態を評価し、お一人お一人の運動メニューを提供致します。

受付時間 9:30~17:00
利用時間
月・水・木・土 / 9:30~17:00
火・金 / 9:30~20:00

定休日 日曜日・その他(年末年始など)
近江八幡市北ノ庄町492
ヴォーリス老健センター 1階内
TEL 0748-32-5540

地域医療課

介護・入院・施設の入所等で、
お困りのことがあり
ましたら、お気軽に
お越しください。
正面玄関入って左側
です。



働く仲間を募集しています!

★看護師・訪問看護師・介護福祉士

“ケアの喜びを一緒に
感じませんか。”



詳細はお問い合わせ下さい。TEL 0748-32-5211(担当:澤谷)

健康生活について「出前講座」のご案内

ヴォーリス記念病院では、「地域の皆さまの健康生活に貢献できる病院」の一環として、地域に向いて『出前講座』を開催しています。また、この講座を地域で開催することにより、地域の皆さまの健康と福祉の増進に努めたいと思っています。ぜひご利用ください。



ヴォーリス記念病院では下記の講座を実施しております。

<p>病気の予防について</p> <p>お聞きになりたいと思われる病気(生活習慣病関連・感染症疾患、インフルエンザや消化器疾患、脳疾患、がんなど)について医師からの話</p>	<p>ホスピスについて</p> <p>ホスピスについて、緩和医療や在宅看取りなど医師や緩和認定看護師、訪問看護師などからの話</p>
<p>健康生活について</p> <p>リハビリ療法士の体操や看護師・栄養士・薬剤師などからの話</p>	<p>在宅医療について</p> <p>自宅で療養を継続させるためのサービスの具体的な内容などについて、訪問看護やホームヘルパーやケアマネージャーからの話</p>

お申込・お問い合わせはこちら >>> TEL: 0748-36-5460 (直通)
①ホームページでもご覧いただけます。 FAX: 0748-32-2152
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 経営企画室まで

お知らせ

がんになったホスピス医の生き方論

希望という名の ホスピスで見つけたこと



ヴォーリス記念病院ホスピス(希望館)長 結井順先生の著書が出版されました。

窓口販売のみ特典!! 『先生の直筆サイン入り』

窓口販売価格 1,200円(税込)

ご購入を希望の方は、医事課受付にてお問い合わせ下さい。